

市史だより

がちまやあ

Gači-majaa

第29号・2013年12月18日(水)発行
年2回(7・12月発行)

編集・宜野湾市教育委員会 文化課 市史編集係
〒901-2224

沖縄県宜野湾市真志喜1-25-1
(宜野湾市立博物館内)

問い合わせ・情報提供先



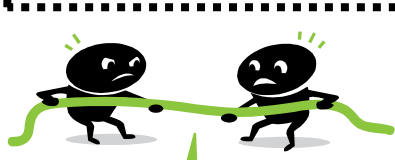
☎ (098)870-9317

Fax (098)870-9316

E-Mail: Kyoiku08@city.ginowan.okinawa.jp

※宜野湾市役所のホームページで、バックナンバーも公開中!!!

HP: <http://www.city.ginowan.okinawa.jp>



ウヤマ 大山ってどんなところ?

沖縄本島の西海岸に面する^{ウヤマ}大山は、北東に伊佐、南東に^{あざ}字宜野湾、南西に真志喜に接した、宜野湾市でも一、二を争うほどの大きな集落です。

戦前、農業を^{なりわい}生業にしていた大山は、豊富な水源と広大な耕地面積に恵まれ、かつ農家一戸当たりの耕地面積にも恵まれていました。そのうえ大山の人々は働き者としてよく知られ、黒糖の生産高は村内トップを誇っていました。

また海側には沖縄県営鉄道嘉手納線が運行しており、地域の方々からは「^{ケービン}軽便鉄道」の愛称で親しまれていました。現在でも軽便鉄道の線路跡は「ケービンミチ」としてその名残をとどめています。

しかしながら、沖縄戦では、大山も甚大な戦災を受け、民間人だけでも300人近い人々が戦争の犠牲になりました。また大山の集落には米軍部隊が駐留し、大山の人々が集落到ることはなかなか叶いませんでした。今も山手側は普天間飛行場に接収されたままとなっています。

戦世の^{イクサユ}苦難、そしてアメリカ世の苦難に直面しながらも、大山の人々は持ち前の団結力で戦後の復興に尽力しました。それはまさしく、綱引きの旗頭に掲げられるような、「和気満堂」「協力一致」の文言さながらの営みだったのでした。



大山の綱引きの旗頭(2001年撮影)

次のページから、さらに詳しく大山についてみていきましょう!



ウヤマターブックワ 大山の田んぼを歩いて



ウヤマターナム 「大山の田んぼ」

大山の特産物と言えばターナムがあげられるのではないのでしょうか。ターナムはサトイモ科の植物で、和名では田芋もしくは水芋と呼ばれ、沖縄では水田で栽培されることからウチナーグチで「ターナム」「ターウム」「ターマーム」などと呼ばれています。また、ウチナーグチで、大山の事を「ウヤマ」、田んぼの事を「ターブックワ」と呼ぶため、大山の田んぼは「ウヤマターブックワ」と呼ばれています。

ターナムの歴史は古く、大山・真志喜など市内の西海岸地域一帯では、明治から大正時代にかけて栽培されていました。しかし、戦後になると市内の西海岸地域では野菜の栽培や稲作が中心になり、人々の生活を支えていました。その後、1965(昭和 40)年頃から大山のターナムの栽培が活発になりました。ターナムは子孫繁栄の象徴として、節句の料理には欠かせないものでもあり、今では宜野湾市の特産物としても知られています。



ターブックワで育つターナム



クンジャンアブシ 「国頭への畦道」

ウヤマターブックワにあるいくつもの畦道の中に、「クンジャンアブシ」と呼ばれる畦道があります。ウチナーグチで「クンジャン」とは「国頭」のこと、「アブシ」とは「畦道」のことで、「国頭への畦道」という意味になります。現在の国道 58 号ができる以前は、首里から国頭を結ぶ道として利用されていました。



現在のクンジャンアブシ

琉球王国時代、首里から牧港、宜野湾、読谷を経て恩納、名護へと続く道を「西宿」と呼び、宜野湾を通る際には山手の内陸部ではなく、平坦なターブックワを通ったと言われています。そんな歴史あるクンジャンアブシの一部が、今でもウヤマターブックワの中にひっそりと残っています。



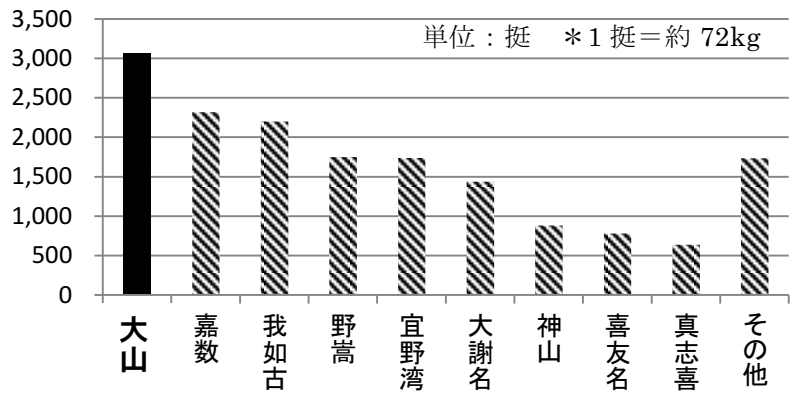


ケービン 大山の産業と軽便鉄道

戦前、サトウキビは沖縄において大切な換金作物の1つでした。中部地域は、県内でも優秀な産地として有名であり、宜野湾村の農業基盤も製糖業でした。その中でも、広大な農作地を持つ大山は、**グラフ1**からわかるように黒糖生産高が村内トップでした。

サトウキビの多くはサーターヤー製糖小屋で自家製糖されていましたが、その後、嘉手納の製糖工場へとサトウキビを運び入れるようになりました。その運搬手段の要となったのが、沖縄県営鉄道嘉手納線*（軽便鉄道）でした。村内で収穫されたサトウキビはトロッコ軌道を使い、大山駅に運び入れられました。

グラフ1 戦前の宜野湾村内における黒糖生産高



(各字別黒糖生産高及び製造費調『宜野湾市史5巻』より作成)

大山駅は村内に設置された3駅（大山駅・真志喜駅・大謝名駅）のうちで、最もにぎわいがありました。駅には農林学校・師範・中学・女学校等へ通う学生たちや、普天満宮への参詣に行く人々の姿も見られました。また、普天間との間は客馬車が往来していたので、駅構内でも客待ちをしていたといいます。

20年以上もの間、軽便鉄道と呼ばれて親しまれていましたが、沖縄戦によって破壊され、その役目を終えることになりました。現在でも線路跡は一部生活道路として使用されており、大山小学校裏側や旧大山公民館前の道路は「ケービンミチ」と呼ばれ、当時の名残を感じさせます。また、宜野湾市立博物館には、大山駅付近で発見された車輪が展示されています。ご来館の際には、軽便鉄道の歴史に触れながら、戦前の風景を思い浮かべてみてください。



かつての大山駅跡(2001年撮影)

*沖縄県営鉄道嘉手納線

1922(大正11)年に敷設され、那覇駅を起点として、宜野湾を經由し嘉手納駅までの区間で運行されていました。

ウヤマクトウバ 大山言葉

「^{ケービン}軽便がクーン」

この言葉を聞いて「軽便が来ない」と思った方が多いのではないのでしょうか。また、大山の方は他の地域の方に勘違いをされた経験をお持ちの方もいる事と思います。

実は大山では「軽便がクーン」は「軽便が来る」という意味の方言になります。他の地域では「チューン」(来る)に対して「クーン」(来ない)という意味ですが、大山では「クーン」(来る)、「クーラン」(来ない)という意味で使われています。



他にはどのような違いがあるのでしょうか。他の地域と大山の方言を表でみてみましょう。

【例】

名詞・動詞	他の地域の方言	大山の方言
着物	ʃiN(チン)	kiN(キン)
肝	ʃimu(チム)	kimu(キム)
釘	kuʃi(クジ)	kugi(クギ)
書く	kaʃuN(カチュン)	kakuN(カクン)
消す	ʃa:suN(チャースン)	ka:suN(カースン)
兄弟	ʃo:re:(チャーレー)	kjo:re:(キョーレー)
	ʃo:de:(チャーデー)	kjo:de:(キョーデー)

上の表からわかるように、他の地域では「チ」「ジ」「チュ」「チャ」「チョ」の発音が大山では「キ」「ギ」「ク」「カ」「キョ」になっています。これは「キ」が「チ」に変化しないという大山方言の特徴を表しています。それは古い発音の形式である k,g 音を使用しているためそのような特徴ができたのです。



大山の方言が他の地域と違う理由は、昔から利用する井泉の水が違うから言葉も違うのだと言われてきました。

また、大山に住む地元の方々が自分達の地域と他の地域の方言は違うのだと誇りを持ち、昔から使われている方言を変化させずに現在まで使ってきたことが、他の地域と違いが出た理由の一つと考えられています。

昔から伝わる方言を後世に残していけるように、これからも大事に伝えてほしいものです。

ウヤマ 大山の年中行事あれこれ



戦前からの主な、そして特徴的な年中行事をご紹介します◎

2月 クシユッキー(腰憩い) (旧暦2/2)

田植え終了後、男性中心で行う慰労会でした。大きな家を借りて、宴会をしました。田植えが終わっていない人は参加させなかったそうです。現在も総合行事として行われています。

3月 サングウチャー (旧暦3/3)

女性だけで集まり、歌ったり、踊ったりして楽しむ日でした。新築した瓦屋の家を借り切って行い、サングウチャーを家でしてもらえることを誇りに思っていたそうです。



8月 ビーチャーニービチ (旧暦8/12)

ジャコウネズミを追払う行事です。小豆入りのソムニー(芋練り)を作り、小さなおにぎりを天井や床下に置いて、「今日はヨーカビーですから」と唱え言をしました。



4月 タクグウキュー (旧暦4/1)

海や海の幸への感謝を込めて祈願をします。宇地泊の漁師から届けられた蛸タコを、タクグウキュー(カニクモとも言う)と言われる拝所に供えて、拝みをしました。

8月 ガンゴ (旧暦8/2)

「ウヤマ・マシチ」と連称されるように、ガン籠(葬式の時に棺を墓地まで運ぶ輿)も真志喜と合同で仕立て、使用していました。その祝いを、ガンヤ籠屋近くの道で行っていました。

5月 グングウチグニチ (旧暦5/5)

健康祈願と合わせ、男子11歳、女子12歳になったら、初めてサルマタ(下着)を着ける日とされていました。子どもたちは友達同士で見せ合って喜びました。

6月 ナナヒチ (綱引き) (旧暦6/15)

豊穣祈願や厄払いなどの目的で行われます。戦前は当日に綱づくりをし、その日の真夜中に引いていたそうです。そのため、近隣の人たちは、自分たちの綱引きを終えてから、大山の綱引きを見に行ったそうです。

戦前は1942(昭和17)年が最後の綱引きでした。その後、1965(昭和40)年に復活させ、現在まで続けられています。



特徴的なアギエー
1979(昭和54)年

これらの年中行事は、現在でも行っているものや、または、祈願行事や総合行事などに形を変えて残っている行事もあります。伝統を守りつつ、さらに新たな取り組みを通し、地域のつながりを大切にしている姿はまさしく「和氣満堂」「協力一致」を掲げる大山ならではの姿です。



毎日、サークル活動などで大賑わいの大山区公民館♪

沖縄県地域史協議会 2013 年度第 2 回研修会報告 in 伊是名島

11 月 28 日から 29 日にかけて、伊是名村産業支援センターをメイン会場に、研修会が行われました。自然豊かな伊是名村に県内から 45 名が参加し、講演会や伊是名村内文化財巡見など、盛りだくさんの研修でした。



ガイドの中川氏、ありがとうございました。

伊佐浜闘争 調査報告

戦後資料編Ⅱ「伊佐浜土地闘争」の事業では資料の編集と並行して、伊江島、沖縄県公文書館で資料調査を行いました。

伊江島ではわびあいの里にて、阿波根昌鴻氏の資料を調査し、伊佐浜の 1955(昭和 30)年当時の状況を伝える資料を拝見することが出来ました。

沖縄県公文書館では、1956(昭和 31)年当時の立退き後のインヌミでの伊佐浜の住民の生活実態を調査した資料や、戦後移民に関する資料を新たに収集することが出来ました。

この場を借りて今回調査にご協力いただいた皆様に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。



わびあいの里(伊江島)
*今回調査を行った場所です。

■ぎのわんのサングウチャー(三月遊び)調査■

サングウチャー調査は、今年度の 4 月からは^{あざ}字宜野湾・大山・大謝名・喜友名・宇地泊・真志喜などで、楽しいお話を聴かせていただいております♪そんな中、嬉しい知らせが！10 月 14 日に我如古スンサーミー保存会が結成されました！！これからの活動も追っかけたいと思いますので、引き続きよろしくお願ひ致します♪



▲10/14(月)我如古区公民館にて

それから、今年度中に普天間・嘉数・新城にも同う予定ですので、その際にはぜひご協力よろしくお願ひ致します。

■歴史公文書等整理・活用事業について■

戦後間もない頃から村役所・市役所で作成された公文書を整理・保管・活用するため、平成 24 年度から本事業がスタートしました。現在は公文書の目録化および整理作業を行っております。

まだ公開することはできませんが、これから多くの市民・研究者の方々などへ、広く活用していただけるよう取り組んでまいりますので、よろしくお願ひ致します。



市史のお仕事体験 ～インターンシップ～

8/19(月)・20(火)の2日間、沖縄国際大学からのインターンシップ実習生(1名)に、市史の仕事を体験してもらいました。まず、市史といえば資料！さまざまな資料の収集・整理・保管は大切な仕事です。

その保管資料の一つである新聞の梱包作業を丁寧にしてもらいました。次に、図書登録作業です。データ入力から装備まで一連の作業をしてもらいました。

その他、展示会で使う写真パネル・キャプションの整理や、『宜野湾市史』刊行に向けての編集作業の一つとして、資料の入力作業など、2日間みっちりのスケジュールを頑張ってもらいました。地味な仕事ではありますが、これらをなくしては『宜野湾市史』は成り立ちません。意義も含め、理解してもらえたことと思います。お疲れさまでした♪

